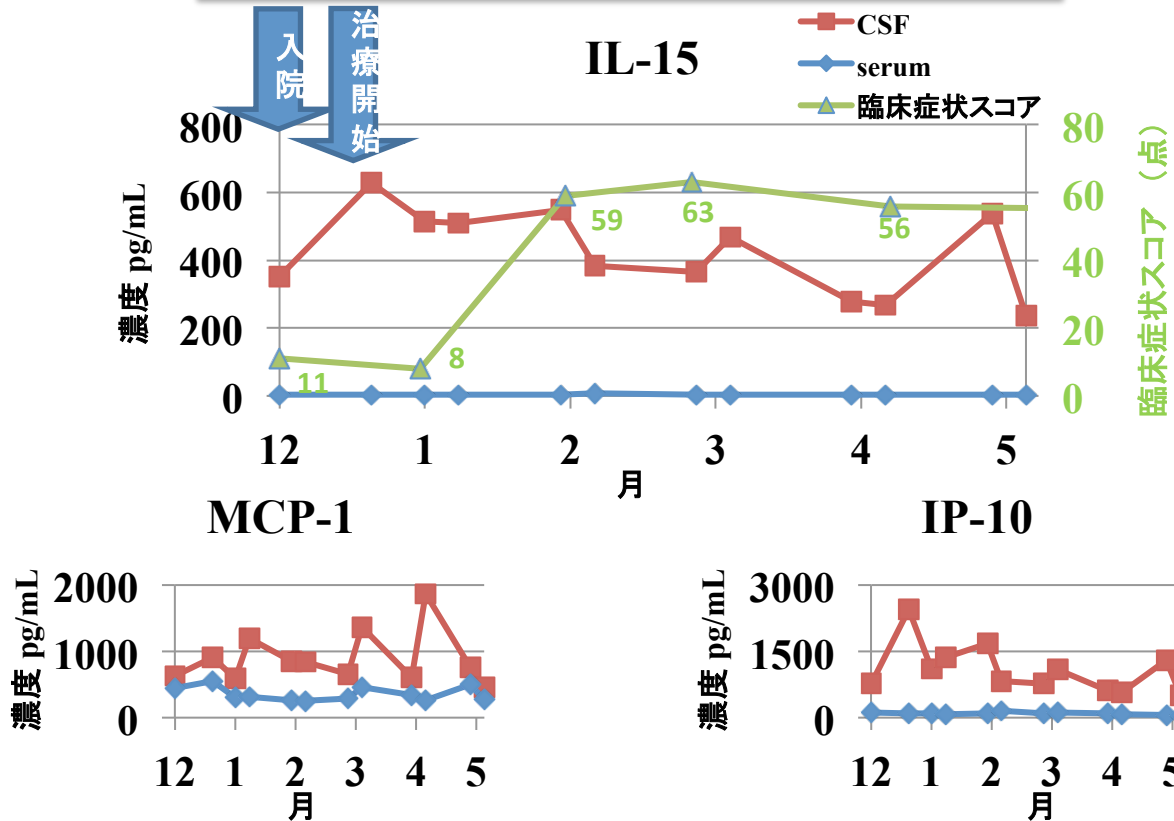


亜急性硬化性全脳炎(SSPE)に対する治療法 開発の基礎研究および臨床応用

研究開発分担者： 福島県立医科大学 小児科学講座 細矢光亮

SSPE患者血清・髄液中の網羅的・経時的サイトカイン濃度の測定

髄液中で増加の見られたサイトカイン、ケモカイン



解説

1. 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)は麻疹ウイルス変異株による遅発性ウイルス感染症であるが、その病態には不明な点が多い。SSPEの病態解明や治療法開発の手がかりとすべく、リバビリン・IFN- α 治療中の3例において、網羅的・経時的サイトカインプロファイルの検討をおこなった。
2. 測定した全30項目のうち、血清では上昇が見られず、髄液中で著明に増加していたサイトカインはIL-15のみ、ケモカインはMCP-1(monocyto chemotactic protein-1)とIP-10 (IFN-gamma-inducible protein-10)であった(図)。一方、IL-15により誘導されるサイトカインであるIL-1 β 、TNF- α やIFN- γ は、血清・髄液中ともに観察期間中ほとんど検出されなかった。図には代表1症例の経過を提示したが、他の2例も同様の傾向であった。
3. SSPEの病態に中枢神経系におけるIL-15に対する反応低下が関与している可能性が示唆された。